

ふるさと稲作ほっと LINE No.7

令和6年5月31日

保温効果を高める水管理で茎数確保を！

田植え終了後からの適切な水管理による早期分けつの確保が理想の穂数の確保へ繋げることが出来ます！

【ポイント①】田植え後の水管理について

田植え終了後はなるべく早く苗を活着させましょう。活着は気温と水温が共に高いほど早くなります。田植え直後の水深は、保温効果を高めるためできるだけ湛水状態を保ちましょう！

【ポイント②】分けつ初期から中期の水管理（6月上～中旬）

活着後分けつの発生を促進させるため、日中は浅水管理（2～3cm）とし水温と地温を高めて日気温較差を大きくします。具体的には、日中は浅水管理によって生長点の温度が高められ、分けつの促進に繋がります。入水は水温が低い早朝に行いましょう！

【ポイント③】有効茎決定期～最高分けつ期の水管理（6月下旬～7月上旬）

6月下旬になると強勢茎という大粒な高品質、良食味に大きく関係する分けつが出揃うとともに、弱勢茎と呼ばれる未熟粒主体の品質、食味低下の一因となる分けつも発生します。弱勢茎を抑えるために、6葉目からの分けつが発生したら中干しまたは深水管理を実施しましょう。

【ポイント④】中干しによる分けつ抑制

排水不良田や異常還元田は右図のように溝切りを実施し、排水を促します。

中干し期間は、7～10日とし、田面に軽く足跡がつく程度とします。中干しにより弱勢茎を抑制し強勢茎主体の太い茎にしていきましょう。



中干し終了後はすぐに湛水すると、急な還元に伴い根が傷む為、間断かん水を繰り返し段階的に湛水管理とします。

